

## 野生動物の行動特性を解明、ICTセンサーの活用

# イノシシの行動特性を利用した新捕獲技術



イメージ

イノシシ等野生動物の警戒心を利用した**新型の箱わなやセンサーを開発**しました。

イノシシが警戒心から箱わなの外へ後肢を残すことや、自ら扉を押し開けると警戒が抑えられることが分かり、これらの**行動特性を利用して捕獲率を向上**しています。

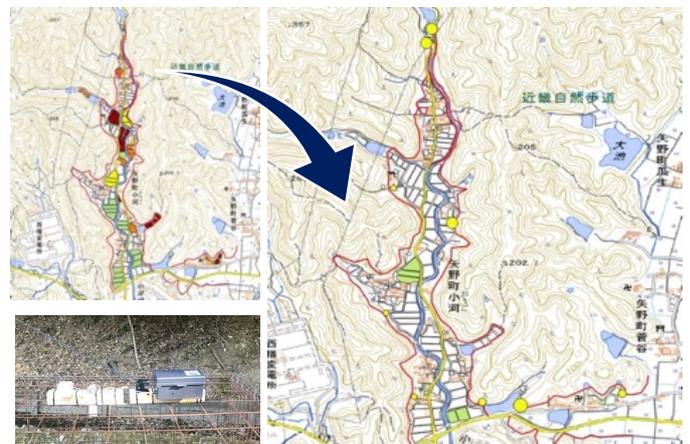
また、野生動物の体長を測定して成獣を選択的に捕獲可能な**新型センサー**は、開発時から普及が進み、**1,200基以上が国内に導入**されています。

防護柵などと組み合わせた総合的な対策を進め、農作物の被害減少が期待されます。

## 侵入防止策と 新型センサー搭載 の箱わなで 被害9割低下も



自ら扉を押し開け箱わなに入るイノシシ



侵入防止柵と新型センサー付き箱わなでの被害（赤色）低減

研究代表機関

農研機構

プロジェクト名

野生鳥獣被害拡大への対応技術の開発

研究期間

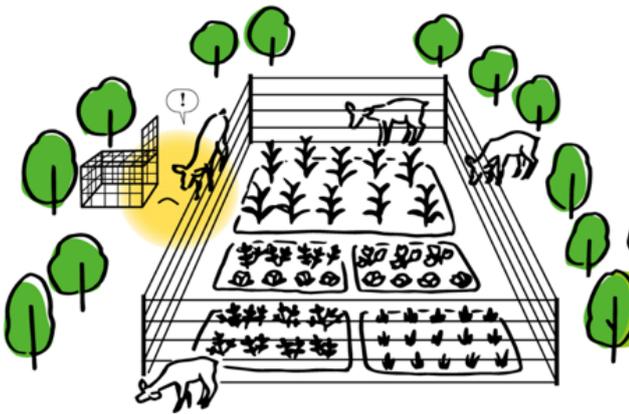
平成28年度～  
令和2年度

共同研究機関：アイエスイー（株）、兵庫県立大学、三重県農業研究所、タイガー（株）

## 研究背景

野生動物による農業被害を防ぐためには、適切な環境管理や防護柵の設置など侵入防止策を実施した上で、加害個体を確実に捕獲することが重要です。「箱わな」は比較的实践しやすい手法ですが、自治体が把握している箱わなの半数以上が年間1頭も捕獲できていない現状があります。

このため、捕獲できない問題点を動物の行動から明らかにし、ICTを組み合わせて捕獲率を高めるとともに、地域で取り組みやすい軽量かつ低コストな箱わなの開発を目指しました。また、侵入防止対策との組み合わせによる地域ごとの対策を検討しました。



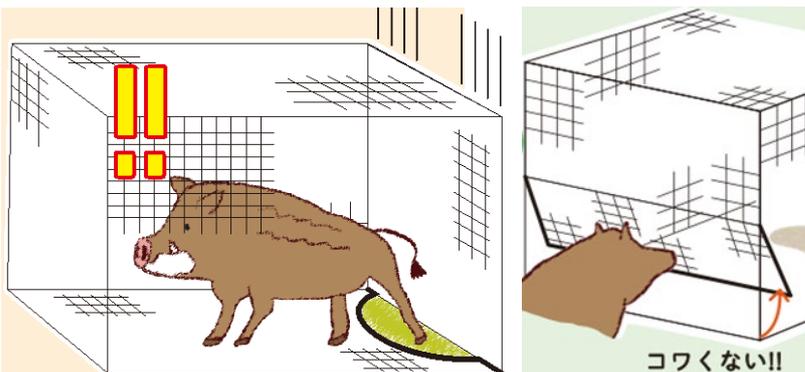
被害軽減には防御と捕獲が重要



警戒して後肢をわなの外へ残す行動特性

## 主要な成果

- 1 後肢を残す、自ら侵入すると慣れるなどイノシシ等の行動特性を踏まえた箱わなを開発 → 「取り逃がし」が減少し、警戒心の強い個体を捕獲することで捕獲期間を短縮
- 2 成獣を選択的に捕獲可能で餌付時から赤外線に慣れさせる機能搭載のセンサーを開発 → 新型センサーは、これまで**1,200基以上導入**
- 3 柵の適切な設置・管理でイノシシ・シカの被害を減少 → 箱わな等と合わせて総合マニュアル化、**地域の取組推進**



イノシシの行動特性を踏まえた箱わなのイメージ



新型センサー付の箱わなで採餌するイノシシ